平成28年度 第3回千葉市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

議 事 録

1 日 時 平成29年2月10日（金） 午前10時から正午まで

2 会 場 千葉市役所 8階 正庁

3 出席者

【委員】 山下会長 土屋副会長 伊藤委員 岡本委員 神山委員 清水委員
高野委員 高山委員 森元委員 林委員 住吉委員 武井委員
玉山委員 中谷委員 松崎委員 原田委員 渡邊委員 津田委員
長岡委員

※20名中19名の委員が出席

【事務局】 保健福祉局 竹川次長

地域福祉課 風戸課長 半澤課長補佐 黒木主査
市民局市民自治推進部市民自治推進課 坂本課長
各区保健福祉センター

中央区:菊谷所長 花見川区:谷内田主査 稲毛区:大塚所長
若葉区:石原所長 緑区:柴田所長 美浜区:白鳥所長
千葉市社会福祉協議会 大木事務局次長

地域福祉推進課 森課長
各区事務所 中央区:吉野所長 花見川区:麻生所長
稲毛区:並木所長 緑区:高吉所長
美浜区:内山所長

※傍聴人なし

4 会議の概要

(1) 議題「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の策定方針（案）、骨子（案）について」

事務局が、資料1～4に基づき、支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の策定方針（案）、骨子（案）について説明し、委員による審議が行われた。審議の結果、細かい文言の修正については会長と事務局に一任とし、概ね了承された。

(2) 報告事項「我が事・丸ごと」の地域づくりに向けた社会福祉法の改正について、「千葉市WEBアンケート調査の活用について」

事務局から、資料5～6に基づき、「我が事・丸ごと」の地域づくりに向けた社会福祉法の改正、千葉市WEBアンケート調査の活用について報告した。

5 会議経過

(1) 開会

○事務局（黒木主査） 皆様、おはようございます。定刻より早いのですけれども、皆さんお揃いのようなので、会議を始めたいと思います。

ただいまから、平成28年度第3回千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会を開催いたします。私は、本日の司会を務めさせていただきます、地域福祉課主査の黒木と申します。どうぞよろしく願いいたします。

初めに、配付資料の確認をいたします。

まず、次第、委員名簿、席次表がございます。

続きまして、A3横の資料1「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の策定方針（案）、骨子（案）」に関する意見等の概要と市の考え方」、資料2「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の策定方針（案）」、資料3「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の骨子（案）」、A4の資料4「各区実施状況調査票」、資料5「我が事・丸ごとの地域づくりに向けた社会福祉法の改正について」、資料6「千葉市WEBアンケート調査の活用について」、参考「千葉市地域福祉計画の第2期からの経過と第4期に向けて」、そして、冊子「支え合いのまち千葉 推進計画（第3期千葉市地域福祉計画）」を置いてございます。

なお、資料については今週初めに郵送しておりますが、その後に内容を精査し、変更となっております。また、資料は全て、本日机上に配付しております資料が正式なものとなっております。不足等ございませんでしょうか。

続きまして、会議の成立と公開について説明いたします。

まず、会議の成立についてでございます。本審議会の開催には、千葉市社会福祉審議会設置条例第6条第3項の規定により、臨時委員を含む委員の過半数の出席が必要となりますが、本日は委員総数20人のうち19人のご出席をいただいておりますので、会議は成立しておりますことをご報告申し上げます。

続いて、会議の公開についてでございます。千葉市情報公開条例等の規定によりまして、本審議会の会議は公開となり、議事録は公表することとなっておりますので、あらかじめご承知願います。

引き続きまして、本日の流れの確認をさせていただきます。

お手元の「次第」をご覧ください。本日の議題は1件、「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の策定方針（案）、骨子（案）」についてですが、前回、11月の第2回分科会に引き続き、議題としてご審議をいただきます。そして、報告事項が二つございます。

一つ目は、「我が事・丸ごと」の地域づくりに向けた社会福祉法の改正についてになります。こちらは、前回の会議の後の動きとして、厚生労働省から情報提供がございまして、この地域福祉計画に係る社会福祉法の改正が予定されることとなりました。そのため、当分科会においても情報提供をいたたく存じます。

そして、最後に「千葉市WEBアンケート調査の活用について」をご説明させていただき予定としております。事務局としましては、本日の会議は概ね2時間程度、12時終了予定としております。

続いて、新任委員のご紹介をいたします。

昨年、12月1日付で行われました民生委員・児童委員一斉改選に伴い、千葉市民生委員・児童委員協議会の余語一晃会長が退任され、後任として林克忠会長が就任されました。よって、当分科会の委員も交代しておりますことをご報告いたします。

ここで、林委員から一言お願いいたします。

○林委員 林でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局（黒木主査） 林委員、ありがとうございました。

続きまして、次第の2に入ります。開会にあたりまして、保健福祉局次長の竹川よりご挨拶を申し上げます。

（2）千葉市保健福祉局次長あいさつ

○竹川保健福祉局次長 皆さん、おはようございます。保健福祉局次長の竹川でございます。

本日は、大変お忙しい中、そしてまたお寒い中、当専門分科会にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

また、前回の会議では、11月としては大変珍しく雪が降りしきる中お集まりをいただきまして、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。本日は、前回の会議で頂戴いたしました意見のほかに、その後事務局に提出をいただいたものも踏まえまして、次期地域福祉計画の策定方針とその骨子の最終案をご審議いただく予定でございます。

また、現在、国におきましては、地域福祉計画の策定を平成30年度より努力義務化する改正社会福祉法を盛り込んだ地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部改正案が、今国会に提出されていると聞いております。こうした国の動きにつきましても、後ほどご報告をさせていただきます。

次期地域福祉計画の策定は、本市の地域福祉活動を推進していく上で大変重要な計画となりますので、委員の皆様におかれましては、それぞれのご専門の立場から忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（黒木主査） それでは、次第の3、議題に入りたいと思います。ここからは山下会長に議事をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

(3) 議題 支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の策定方針(案)、骨子(案)について

○山下会長 それでは、議事に従いまして進めてまいります。

次第の3の議題1「支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の策定方針(案)、骨子(案)」について、入らせていただきたいと存じます。

お手元の資料について、まず事務局から説明をお願いします。

○事務局(風戸課長) おはようございます。地域福祉課長の風戸でございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。

着席させていただきますして、説明をさせていただきます。

先ほど次長よりご挨拶の中でもございましたが、前回、11月24日に開催させていただきました第2回分科会では、お手元にあります参考の資料に基づきまして、第2期からの経過と第4期に向けての課題を含めご説明をさせていただき、「支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の策定方針(案)及び骨子(案)」について、委員の皆様よりご意見、ご質問をいただいたところです。本日は、前回の会議や、その後、委員の皆様からいただきましたご意見等に本市の考え等をお示しし、皆様からのご意見等を反映させた第4期計画の策定方針及び骨子についてご承認をいただきたいと考えております。説明は関連がありますので、一括にて説明をさせていただきます。委員の皆様におかれましては、前回の会議に重ねてのご審議となりますが、どうぞよろしくお願いたします。

それでは、最初に、A3の資料1、「支え合いのまち千葉 推進計画(第4期千葉市地域福祉計画)の策定方針(案)、骨子(案)」に関する意見等の概要と市の考え方」をご覧ください。

こちらは、委員の皆様からいただいた23項目のご意見につきまして、内容により、裏面を含めて三つのカテゴリーに分類して整理し、本市の考え方を記載させていただいております。また、ご意見等を踏まえ、策定方針(案)、骨子(案)への反映についても記載しております。

なお、本市の考え方に重点を置きつつ説明をさせていただくとともに、資料2「策定方針(案)」、資料3「骨子(案)」への反映につきましても、併せてご説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、まず「1 地域福祉の担い手に関することについて」ですが、10項目のご意見等をいただきました。1番から5番までは、第4期計画の策定にあたっての地域運営委員会と社協、地区部会との関係や、地域運営委員会の役割、機能分担などについてご意見をいただきました。

これに対する本市の考え方ですが、地域運営委員会は、第3期計画の策定時である平成26年度に始まった市の重要施策であり、市民局が中心となり進め

ております。現在、地域運営委員会の設置は11地区で、設置済みの委員会においても構成団体の情報共有等の役割にとどまっているものの、第4期計画では地域合意による選択肢のひとつとして計画策定に関与の可能性もあると考え、前回の会議においては策定方針（案）「2 計画策定の流れ」に記載させていただきました。ただ、現時点で、地域運営委員会が第4期計画の策定主体となることは難しい状況にあります。地域の実情により、計画策定の過程で取組みについての情報共有や調整等の役割を果たし得るものとして整理をさせていただきました。今後も、地域運営委員会との役割・機能分担について、引き続き検討してまいります。

このご意見等に基づきまして、お手元の資料2の策定方針（案）「2 計画策定の流れ」の中で、社協地区部会と「情報共有など」の連携を図ることに変更させていただきます。

次に、6番、7番は、社協地区部会と町内自治会との関係についてご意見をいただきました。

これに対する本市の考え方ですが、私どもとしましても、地域福祉の推進にあたっては、社協地区部会と町内自治会との連携が極めて重要であると考えております。社協地区部会と町内自治会との関係づくりにおいて、双方の役員を兼務し連携が非常にうまくいっているエリアもある一方で、関係づくりにお骨折りをいただいているエリアもあると聞いております。本計画を推進していくためには、さらに町内自治会との連携は欠くことのできないものとなりますので、第4期計画におきましては、千葉市町内自治会連絡協議会、千葉市民生委員児童委員協議会等に対し、計画策定のための協力依頼を行うほか、庁内関係部局と協議を深め、社協地区部会と町内自治会のさらなる連携が進むように努めてまいります。

このご意見等に基づき、お手元の資料2の策定方針（案）の中で、「1 策定方針 近年の法令・制度等への流れの対応」において、下線部分、「社会福祉協議会地区部会と町内自治会とのさらなる連携」と明記するとともに、「2 計画策定の流れ」、「4 計画のイメージ」の中でも表現を強めさせていただきます。

次に、8番は、計画策定の担い手としての社協地区部会についてご意見をいただきました。

これに対する本市の考え方ですが、第4期計画においても、地域福祉計画の推進においては、概ね中学校区単位に組織された社協地区部会が主な担い手として適任であると考えております。引き続き社協地区部会が地域の中核としての役割を担い、区計画の取組みを推進します。

このご意見等に基づき、お手元の資料2の策定方針（案）、「2 計画策定の流れ」の中で、第3期計画と同様に、社協地区部会が主な担い手と読み取れるよう、社協地区部会のみ記載とさせていただきました。

次に、9、10は、第3期計画での評価、地域福祉計画での千葉市社会福祉協議会の位置付け及び社協地区部会での人材不足等についてご意見をいただき

ました。

これに対する本市の考え方ですが、第3期計画での評価については、平成27年度、28年度の推進状況や、現在各区に依頼している、社協地区部会での全ての取組項目に関する実態調査の結果などを踏まえ、課題等を第4期計画の内容に反映させていきます。

また、社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であることから、本市の地域福祉の推進にとっても極めて重要な役割を担い、その活動については私どもとしても多大なる期待を寄せているところでございます。計画策定時においては、重点取組項目の設定などにおいて作業がスムーズに進行するよう、社協の区事務所がサポート役として地区部会等と協議を行い、重点取組項目、活動主体、取組内容の設定ができるよう支援を行っていただきます。

また、併せて、社会福祉協議会と協議を行い、来年度、市社協で策定する地域福祉活動計画と足並みを揃えながら進めてまいります。

また、市社協とともに社協地区部会での人材不足を軽減できるよう、NPOやボランティア等の活用についても検討してまいります。

このご意見等に基づき、お手元の資料3の骨子（案）、第1章「2 地域福祉計画の位置付けと他計画との関係」及び第8章「1 計画の推進体制」の中で、市社協との関係、連携について追記させていただきました。

続きまして、資料1の裏面をお願いいたします。まず、「2 次期計画の内容に関する事」ですが、6項目のご意見等をいただいております。11、12番で、コミュニティソーシャルワーカーなどの専門職の育成・配置について、また13、14番で、地域包括ケアシステム及び認知症対策について、また15番で子ども分野の計画への取組みの記載について、さらに16番で社会福祉法人の地域貢献についてご意見等をいただきました。

これに対する本市の考え方ですが、いずれも計画に盛り込む方向で検討しております。このご意見等に基づき、お手元の資料3の骨子（案）、第6章「市の取組み」の中で追記をさせていただきました。なお、16番の社会福祉法人の地域貢献につきましては、「第4章 先駆的な取組事例」において、社会福祉事業者等の取組み等を記載していく予定であります。

最後に、下段の「3 次期計画の策定方法等に関する事」ですが、こちらにつきましては7項目のご意見等をいただきました。まず、17番から19番までですが、重点取組項目の選定の考え方や区の活性化事業等の連携、そして評価についてご意見等をいただきました。

これに対する本市の考え方ですが、計画策定時における重点取組項目の選定につきましては、第4期計画においても各地区部会において選択するものですが、地区連協や民児協等に選定作業についての協力を依頼するとともに、社協区事務所等が助言しながら、大きな偏りが出ないように働きかけに努めてまいります。また、本当に必要な取組みが選択されるよう、庁内部局と連携し、区活性化事業などの活用可能な事業の情報提供等にも努めます。

なお、区支え合いのまち推進協議会において、区に共通の重点項目を選定していただくことも可能としております。また、評価結果を意識し過ぎ、評価を見据えて重点取組項目を選定することがないように、また選定については社協地区部会の作業がスムーズに進むよう、例えば、様式の統一化を図るなどして、可能な限り地域に流してまいります。

次に、20番ですが、テーマ分類の仕方についてご意見をいただきました。これに対する本市の考え方ですが、現在実施中の「取組項目の実施状況調査」等の結果を踏まえ、地域の取組状況を把握したうえで、幅広い共助の取組みが選択されるような、現行の9分類に拘らない再分類を行うことを考えております。特に、今回、地域包括ケアシステムの構築などを推し進めていくよう工夫してまいります。このご意見に基づきまして、資料3の骨子(案)、第7章の中で、「テーマ①から⑨に限らず再検討」と追記をさせていただいております。

次に、21、22番ですが、庁内関係課等の連携についてご意見等をいただきました。これに対する本市の考え方ですが、引き続き、市民局市民自治推進課をはじめ、庁内関係各課との調整など、さらなる連携に努めてまいります。

最後に、23番ですが、スケジュールの関係についてご質問をいただきました。これに対する本市の回答ですが、市計画と区計画は同時進行で進めてまいります。よって、策定作業においても同様となります。区支え合いのまち推進協議会では、社協地区部会から地区部会エリア内の実施状況の報告を受け、区計画の推進状況をまとめ、成果や課題を検証し、それらを踏まえて協議・検討をいただき、次期の4期計画を作成いただきます。

このご質問に対しまして、お手元の資料2の策定方針(案)「3 スケジュール」の記載において、区と市の取組みを具体的に追記させていただいております。前回の会議において、区と市の策定作業がわかりづらいとの意見もありましたので、修正をさせていただきました。具体的には、下線を引いてあるところが前回からの変更となっております。

簡単にスケジュールを説明させていただきますと、本年度末にかけ、各区支え合いのまち推進協議会を開催いただきます。WEBアンケートにつきましては、計画素案の作成時から策定作業の参考にすべく、5月に前倒しして実施することといたしました。なお、内容につきましては後ほどご報告させていただきます。

6月にかけて各区の計画と市の計画を並行して作成していただきます。6月末を目途とし、区支え合いのまち推進協議会を開催し、区の取組項目を決定いただく予定としております。7月に開催予定の平成29年度第1回分科会にて、皆様に計画素案をお示しし、ご審議をお願いする予定としております。

その後、各地区部会において、選択した重点取組項目をもとに各区においてそれぞれ計画原案を作成し、各区支え合いのまち推進協議会にて重点取組項目を含む計画原案を決定していただき、市にご報告をいただきます。そして、市民説明会を経て、11月に第2回地域福祉専門分科会にて計画案のご審議をいただく運びとなります。

その後、パブリックコメントを経て、平成30年3月に最終案のご審議をいただき、第4期計画策定というのが現在のスケジュールとなっております。

以上が、資料1「支え合いのまち千葉 推進計画の策定方針（案）、骨子（案）」に関する意見等の概要と市の考え方についての説明になります。

続きまして、資料2「支え合いのまち千葉 推進計画の策定方針（案）」をご覧ください。

今まで、資料2「策定方針（案）」、資料3「骨子（案）」への反映につきましてはご説明をさせていただきましたが、それ以外の修正点につきまして、2点ご説明をさせていただきます。

まず、1点目が、左側「1 策定方針」の「その他」についてでございます。

昨年11月の会議の時点では、計画期間につきましては、千葉市新基本計画（第3次実施計画）の残り期間との整合を図り、平成30から33年度の4か年ということをご予定しておりましたが、第3次実施計画の計画期間を3年間とする旨の方針決定がなされたこと、また国におけます社会福祉法改正も見据え、計画期間を3年間に変更させていただきたいと考えております。

次に2点目が、「3 スケジュール」における最初の「平成29年1月 区計画の全ての取組項目の実施状況調査開始」とある、この実施状況調査についてでございます。お手元の資料4「各区実施状況調査《〇〇区》」と書かれたものをご覧ください。

こちらは、現在、各区において実施状況調査を行っている調査票となります。前回の会議においては、調査内容は取組項目の実施の有無だけとすることを予定しておりましたが、ご意見等を踏まえ、地区部会エリアでそれぞれの取組項目の事例がどのくらいのエリアで行われているのか、またその実施頻度はどのくらいなのか、今後の方向性をどう考えているかまで調査内容を拡大し、実施することといたしました。調査結果は、3月末までに各区で開かれる支え合いのまち推進協議会にてご報告をいただくこととしております。

資料2「策定方針（案）」についての説明は以上となります。

最後に、資料3「支え合いのまち千葉 推進計画（第4期千葉市地域福祉計画）の骨子（案）」をご覧ください。こちらにつきましては、右下の「第3期地域福祉計画からの主な変更点」というところをご覧ください。

前回の会議にてご説明させていただいたとおり、第4期計画につきましては、第3期計画の体系を基本的に踏まえ、新たな動きである地域包括ケアシステムなどを追加していくこととなります。委員の皆様のご意見等を踏まえ、修正した箇所のみ、ご説明をさせていただきます。

まず、第2章「地域福祉の現状と経緯」において、今後の課題に、「社会福祉協議会地区部会と町内自治会との連携強化、担い手の確保など」を追加させていただきました。

次に、第6章「市の取組み（公助の取組み）」において、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）などの専門職の育成、配置などを盛り込む。」を追加させていただきました。

最後に、第7章「地域の取組みと市及び社会福祉協議会等の施策」において、「取組みテーマ①～⑨に限らず再検討」を追加させていただきました。

以上が、皆様方からのご意見をいただき、第4期の策定方針（案）、骨子（案）に反映させたものとなっております。

説明は以上となります。よろしく願いいたします。

○山下会長 前回、皆様からたくさんいただいたご議論を事務局で詳細にまとめてくださいまして、コンパクトな説明をいただきました。

それでは、ただいまの説明についてご意見、ご質問がございましたら、挙手の上、発言をお願いいたします。30分ぐらいを予定しておりますので、どうぞいろいろとご意見いただければと思います。

武井さん、お願いします。

○武井委員 武井でございます。

それでは、資料1の地域運営委員会のところからお聞きしたいんですけども、地域運営委員会の市の考え方の内容を見ると、これは市の市民自治推進課の考えですかということを知りたいのですが、例えば「構成団体間の情報共有等という役割にとどまってはいるものの」なんて、これをこういうふうに書かれますと、本来そうじゃないもので、それだったら地域運営委員会をいつごろまでに本来の形に持っていかうとするのか、その辺のところがある程度見えないことには地域運営委員会の内容を書けないと思うし、それから、こういうふうに書かれているけど、私のところなんかもやっているのは、実際に地域の課題をいろいろ意見を出し合って選定して、それを1年間のテーマとして現実にやっているんですけども、この辺は書き方も少し問題があるんじゃないかというふうに思います。

いくつもありますけれども、1点ずつ。

○山下会長 そうですね、一つずつということ。

じゃあ、よろしければ、重ねて何か同じような質問がありますか、ほかの委員の方で、地域運営委員会に関しては。

では、事務局から何かございますか。

○事務局（半澤補佐） 地域福祉課でございます。

今、武井委員から、私ども本市の考え方、地域運営委員会の記載について、市の認識として役割が一定程度でとどまっているですとか、将来性を示さない中ではというお話があったんですが、今お話にありましてとおり、地域運営委員会は現在、市内11か所で運営いただいております。今後、今年度内に4か所ほど設立に向かって進んでいると聞いております。地域によりまして、私ども市からの声かけに、すぐ応じて設立いただき順調に推移いただいている団体もあるかと思えますし、また、立ち上げはしたものの、情報共有にとどま

っているという団体もあるやに聞いております。私ども、このようにお書きしましたのは、今後も含めて15団体が全てこのような状況だということを示したわけではございません。今後につきましては、所管する市民局において地域運営委員会は小学校区単位、中学校区単位で可能なところから速やかに立ち上げたいということで動いておりますが、具体的な目標というのは正直なところなかなか目標値には届かない、緩やかな形で拡大を図っているというのが現状でございます。

○山下会長 はい、どうぞ。

○武井委員 今のお話で、実際に今度の第4期の計画、3年計画ということになってきて、そのときに地域運営委員会をどのくらいの位置づけで書けるかというのが、やはりこれを全体の本来の形にどのくらい近づけるかによっても決まってくる話で、その中で考えてみると、3年の間に、今お話しのような話だと、実際に役に立つような形に持っていけるんですかというのが疑問に感じるんですけども、その辺の考え方というか覚悟のほどというか、本気になってやるんだったらもう少し明確に進めてもらわないといけないし、そうでないのであれば、あまり地域運営委員会というのにウエートを置いて、この中に第4期計画には書けないじゃないかという気もしますので、その辺はやはり市の覚悟というか考え方を、もう少しはっきり出すべきなんじゃないでしょうか。

○山下会長 武井さんとすると、どうするといいいと思いますか。

○武井委員 私としては、前回のときに問題点としても申し上げたんですけども、やはり地域運営委員会でその地域の重点課題というのを考えると、やはり安全・安心の問題と福祉の問題が統一的に出てくると、必ず出てくる課題なんですね。その中で福祉の課題をやろうと思うと、どうしてもお金の話なんかも含めて今の状況ではまだ整理されていない、統合補助金の中に社協関係のものが入っていないという問題があるので、その辺も早くしっかりしてくださいというのをお願いしているんですけども、なかなか答えが出てこないというのが実態です。

○山下会長 そこが背景になるということですね。

○事務局（坂本課長） 地域運営委員会を所管しております、市民自治推進課長の坂本でございます。

地域運営委員会におきましては、地域にも制度の趣旨については理解していただいております。青少年育成委員会、町内自治会、社協、また民生委員・児童委員、スポーツ振興会、この5団体は主要団体として構成団体に入っております。中には、老人クラブだったり学校だったりPTAだったり、もっとすご

いところではあんしんケアセンター、病院、こういったところも、大学も入っているところもございます。こういった構成団体になっている地域運営委員会というのは、やはり地域の課題を福祉部門だけではなく、今、地域福祉といいますと、高齢者だったり子どもだったりではなく、もう住宅だったり環境だったりさまざまな問題が課題として浮上しております。そうした中で、この支え合いのまち千葉 推進計画において、重点取組項目ですか、課題を抽出するにあたっては、こういう組織はさまざまな団体の方が構成員になっておりますので、抽出する一つのツールとしては、私どもとしましては、いい組織だとは思っておりますので、地域運営委員会についても、今年30地区にいろいろ説明に上がりまして、実は地域運営委員会という組織にしなくても、自分たちはコミュニティづくり懇談会といった組織だったりで情報の共有が図れているという地域もございました。なので、来年度、再来年度に向けてさらなる地域運営委員会の設立に向けては私ども促進してまいります、ぜひ、私どもとしましては、この運営委員委員会という組織については地域の課題を抽出するにはすばらしい組織だとは認識しております。

また、武井さんがおっしゃるには、補助金につきまして社協の補助金が統合されていないということも事実ですが、それにつきまして今後とも社協と話を詰めながら統合できるかどうか、でも統合した場合にやはり社協の中の会費というのが結構含まれていると聞いておりますので、市の補助金だけではないということで、統合してしまいますと事務の煩雑につながるということも懸念されておりますので、慎重に検討していきたいと思っております。

以上でございます。

○山下会長 ありがとうございます。

何かございますか。

○武井委員 今回の回答は回答でわかるんですけど、要は、それだと地域運営委員会を第4期計画の中でどういう位置づけにするんですかというところが見えてこないんですよ。努力はして進めていきますよ、じゃあそれをどれくらい期待して4期計画の中にどれだけ入れられるんですかという、そのあたりを疑問に感じているんですが。

○山下会長 はい、お願いします。

○事務局（風戸課長） 地域福祉課でございます。

今回、この地域福祉計画を策定するにあたってというところがまずあるかと思えます。こちらにも記載させていただいたとおり、来年度策定しなければならないというところがございますので、その部分につきましては地区部会を中心にやっていただきたいというところがございます。

今後その地域福祉計画を推進するにあたっては、地域運営委員会、それから

地区部会も含めて、連携、情報共有、調整等が必要だということがござい
ますので、その辺に含め、今後、役割、機能分担については検討させていただ
きたいというふうに思っております。

○武井委員　いいですか。

地域運営委員会の実態を見てみると、現実には地区部会や何かも含めて当然
入っているわけですね。そういうところでやるときに、例えば重点課題を選
択するときそれを地域運営委員会のできるのか、やはり地区部会が主体にな
って考えなきゃいけないのかという話で、今の課長の答えだと、地域運営委員
会ではなくて地区部会が選定するんですよというお話を言われたというふう
に理解していいんですか。そうすると、やはりもう地域運営委員会の役割とし
てはそのレベルしか第4期計画では考えられませんよということになるわけす
ね。それでよろしいんですか。

○事務局（半澤補佐）　地域福祉課です。

地域運営委員会に対する期待といいましょうか、第4期計画における位置づ
けをはっきりしたほうがというご提案なんですけれども、先ほど申しましたの
は、地域によって運営方法なども一定程度お任せしたいと、できる限りとい
うよりも現実としては地区部会が主体となって行わなければいけないんです
が、連携した結果、地域運営委員会でも担えるところがあるならばぜひとも願
いしたいということです。地区部会のこれまでの活動を踏まえれば、今後につ
いても当然中心となっていただきたいということで、それについては変わりはご
ざいませぬ。

○山下会長　はい、ありがとうございます。

○土屋副会長　一応、私は社協の立場からお話しします。

地域運営委員会って発想は私もいい発想だと思うんですね。そういう五つの
団体が集まって、自分たちのゾーン、地域の問題を掘り出して、いろいろ役割
分担を決めて、さらに市から来る統合補助金を自分たちの意志で問題ごとに割
り振って、それで一つの解決に取り組んでいくというのは非常にいいことだ
と思います。ただ、そういう組織が成熟するまでは相当時間がかかるんではな
いかなと思っています。実際のところ、別に市民局さんをけなすわけじゃない
んですけれども、地域運営委員会は、社協の地区部会とか町内自治会とかの三
重構造になっているんですが、この辺の整合性がきちっと詰め切れないまま
スタートした感があるのかなと私は感じています。

私どもの地区部会も、後ほど説明があるのかもしれないけど、これから地域
力を高めていくために、私たちの地区部会もはたして適正なゾーンとなってい
るのか、少し広過ぎるかなというところも個人的には気にしていて、67ある
地区部会のゾーンのあり方についても検討する地域はあるんだろうと思ってい

ます。従って、町内自治会、地区部会、地域運営委員会、まずこの辺のゾーニングをまず概ねそろえることとか、それと、今、武井さんからご質問されているそれぞれの役割、そういうもの、いわゆる町内自治会でやったほうがいいもの、地区部会でやったほうがいいもの、そして地域運営委員会の役割って何だとか、まずその辺を三者とかいろいろ地域の方々のご相談しながらしっかりすることが早急な課題だと私は思うんですね。ですから、この表記の仕方につきましては、私ども社協も、来週に風戸課長さん、坂本課長さんと話し合う機会を持っていますので、表記の仕方については私どもで検討してまいりますので、山下会長さんにご一任という形で任せていただければ大変ありがたいんですが、以上です。

○山下会長 武井さん、最後、一言どうぞ。

○武井委員 ご指名なので。

やはり、せっかく地域運営委員会、これスタートして少しずつ広がってきて、中にはかなりその趣旨に近いような形でもう進めてきているところも出てきているので、やはりそれはそれなりにうんとバックアップをしてもらって、さらにドライブがかかるようにしてほしいと思うんですけど。そうしたときに、この第4期の中でどれだけ書けるかなというのが非常に疑問なところがあるんですけども、そのドライブをかけてもらう市の動きだとか、さっき言ったように、お金の配分を含めた今の曖昧な状況のところをいつごろまでに直してもらえるのというのが見えてくれると、非常にやりよくなるんですけども、いつもその辺のところでは話をごちゃごちゃとなって、じゃあ地域で重点課題をこの福祉からやりましょうよ、じゃあそれに今の活動補助金の統合した部分のお金を投入してもいいの、いけないのというのも、それもはっきりしないような状況なんで、やはり早く片づけてもらってここに書けるように進めてもらったらいいいんだろうと思うんですね。

○山下会長 ありがとうございます。

ほかにいらっしゃいますか。よろしいですか。

この地域運営委員会については前回の議論でもかなり出てまいりましたけれども、千葉市の市民局が中心となってこの設置を進めていくということになっています。前回、松崎委員からご意見いただいたような、庁内連携が重要だということで、これは、いわゆる地域福祉を進めていくための福祉という意味での地域福祉と、地域社会におけるさまざまな活動を支援するという意味での地域福祉の推進をどうやって地域福祉計画に取り込んで強めていくかというのが次期計画の強調ポイントだというふうに捉えるならば、この地域運営委員会と地区部会については、関係部署の庁内連携、あるいは地域運営委員会と千葉市社協との話し合いもされて、情報共有などとするのか連携強化と書けるのか。また、連携にあたっては社協が調整役というか、地域運営委員会と地区部会の

調整役を図っていけるのか行政も関わりをきちんと持ちながら、武井委員のおっしゃるような地域運営委員会の進め方が進む地域もあれば、そう簡単には進まない地域もあるではないところも出てくるのではないかと。実際に、地域差が出てくるといのはこの地域福祉の宿命でもあるので、その地区ごとの違いというものも受け止めて、住民の意思を尊重したり、あるいは少し積極的に下支えをしていくということが配慮されることによって地域福祉を充実させてゆく、地区部会もしっかりと活動をするし、地域運営委員会の成否も、最後は市民が評価するかどうかということになってきますそういうことでこの議論はよろしいかと思えます。

副会長からご意見のあったように、町内自治会と地区部会というのが元祖、古くから脈々とつくられてきた住民の地域組織で、一方で、そうした課題だけではないさまざまな地域の市民活動について、地域運営委員会という枠をつくってもう少しウイングを広げた市民の役割とつくっていくことになるので、そうすると町内自治会に入らない方、地区部会に入っていない方の市民の活動をじゃあどうするかという話が確実に都市部では出てまいります。そうしたところの地域運営委員会というところの役割も地域福祉の次の仕事になってまいります、社協の仕事としても注目されていることだと思いますので今言ったようなことを踏まえた調整を庁内でもなされればいいかと思えます。

ほかにございますか。

○原田委員 この内容については特に言うことはないんですけども、千葉市が期待していることと、それから現場で我々がやっている実力、その差が非常に乖離が大きいという感じがするんですよ。例えばこの第7章の取組みテーマが①から⑨までありますけれども、行政からしてみればこれ全部、共助で地域でやってくれということなんでしょうけれども、現場の受け取り方は、とてもじゃないけどこれ全部できないんですよ。できるところもあるし、この中の一つか二つしかできないところもあるし、丸っきりできないところもある。だから、そういうところを市はどうしようとしているのか。

例えば、町内自治会、これ前からの問題なんですけれども、ほかの区はわかりませんが、花見川区を例にとると、花見川区全体で152町内自治会があるんですよ。そのうち100世帯以下が、3分の1ですよ、50団体あるんですよ、52か。100世帯以下なんていうのはほとんどこれ活動できないですよ、こういう活動は。一部は講演会に参加するとかそういうことはできるかもしれないけれども、見守りとか支え合いとかいうものは非常に難しいですよ、人数的に、もう物理的に非常に難しいですよ。それで、逆に1,000世帯以上が15の町内自治会ぐらいあるんですけど、そういうところも高齢化が進んでやはり人がいないしリーダーがいない、それから70代の方は最近ほとんど働いていますよ、飯が食えないから、年金だけで食えないものだから。だから人がいないんですよ。中間が100世帯から1,000世帯未満ぐらいのところは、全体で見回すと大体20%ぐらいは会長さんが毎年代わるですよ。

20%以上だと思いますね、20から30%近くは毎年会長が代わります。ですから、ほとんど現状維持で、現状維持も難しいような状況ですよ。

だから、そういう町内自治会の実態、これはそこらの地区部会も同じですからね、地区部会も同じなんです。だから、こういう状態でこの計画をどうやって推進していくのか、その辺の議論がほとんどされていないけれども、力のないところにどうやってこれを広げてやっていくのか、この辺をもう少し議論していかないと、こうやりますというだけでは、この10年、私ずっと見てきていましたけど、やはりやれないものはやれないんですよ。全然進んでいないですよ、中身を見ると。それで、第4期でもまた同じようになることはもう目に見えている、今のままだと。さらにひどくなるでしょうね。だから、その辺をどうされるのか、これ国の方針とも絡んでくるかもしれないけれども、とにかく、それにさらに高齢化で人がいなくなる、そういう状況の中でどうやって進めていくのか、その辺が全然我々はわからないんですよ。だからもうしらけていますよね、連絡会なんて開いてもできないものはできない、できる範囲でやりましょうと、こんな感じですよ、実態は。だから、非常にこの計画と現場の乖離を私は心配しているんですけど、とにかくできる範囲でやればいと割り切っちゃえばそれでいいんですけど、それでいいですか。

○山下会長　　ありがとうございました。
重ねてどうぞ。

○津田委員　　私、若葉区の推進協議会の委員長をやっていて、就任したばかりなんですけど。先日、我々の若葉区の全体の委員会の会議がありまして、ここで千葉市の介護予防・日常生活支援総合事業という説明会がありまして、これを聞いて非常に、今、原田委員がおっしゃったみたいな、各町内自治会、最少では町内自治会単位、地域でしっかりした支え合い、助け合いの組織がしっかりでき上がらないことにはどうにもできないなというような印象を受けたわけですよ。それで、そういった担い手の活動の拡充が不可欠だという認識を私は持っていて、それで先ほど、私のところにもいろんな町内自治会がありまして、本当に小さな町内自治会から、500世帯から、あるいはもう少し大きいような町内自治会からありまして、それで毎年役員が代わると、私の町内自治会もそうです。そういったところでこういった支え合いを担ってくれる組織をどうやって立ち上げるかというのは極めて重要だというのは、もう数年前から私は認識してありまして、それで、私のところは代わるんですけども、どうやってそういった組織を立ち上げたらいいのかということで、私のところはついこの間立ち上げたんですよ。それで、私が所属している地区部会は町内自治会が四十いくつ、その傘下にあるんですが、その地区部会に参画している町内自治会というのが10にも満たないんですよ。こんなことでは地区部会が一生懸命やったって、せいぜいそこら辺の参画している町内自治会が10なら10の中にやっと10個かそこら、そういった支え合いの組織が立ち上がるぐ

らいしか期待ができないと、こういうような印象を持っています。ですから、この地区部会が、先ほど町内自治会との連携ということで資料2の一番下のところ、左下のところに、社協、地区部会が中心となってそういった地域福祉の活動団体と連携をとる、こういうことで、地区部会がやる項目というのが、重点取組項目の設定だとか、活動主体と取組内容を具体的に設定すると、これ以外にもっと町内自治会に対して啓発活動ですね、これがまずあって、それでしっかりある程度連携がとれる町内自治会ができれば、そこに対してこういう活動をやるようにして仕向けるとか、そういったことのほうが大事じゃないかと思うんです。

それで、先ほど原田委員からありましたように、町内自治会も小さいところから大きいところまであります。それで、私、地区部会長から相談を受けたことがあるんですが、43の町内自治会の中で、小さいところ、大きいところありまして、その小さいところなんかにこういったことを言ってもしょうがないと。でも、それは確かにしょうがないかもしれないけれど、そういった小さい町内自治会と町内自治会を統合してその中でこういったことをやりましょうとか、そういったことを働きかけるのが地区部会長の役目でしょうと、こういった話をしたんですが。やはり基本となるのはそういった町内自治会単位、町内自治会にしっかり働きかけるというのを地区部会が積極的に推し進める以外にないだろうなというのを、今思っていますけどね。

○原田委員　働きかけてもだめだけどね。

○山下会長　どうもありがとうございます。

ほかございますか。

今までのところで、原田委員がお話しされたことで、事務局は何かありますか。

はい、お願いします。

○事務局（風戸課長）　地域福祉課でございます。

確かにいろいろ、少子高齢化、人口減少、それから人がいなくなる、物が無い、資金もないというような状況がどんどん進んでいくというところはございます。これに対して国においては、後であります、その中で支える側と支援を受ける側というものをそれぞれ分けるのではなくて、一緒に、一部では支える者になる、一部では支えられる側になるということも考えられるんじゃないかということで、今「我が事・丸ごと」ということで国も進めてきているというところがございます。

一方で、地域のお話の中で、以前、津田委員からお話がありましたが、地域において町内会長さんが毎年代わってしまってという中で、少し工夫をしてその下で働いている方々を、何年間かずっとつながっているというところもあるので、その方々にいろいろと、こういうことを進めていきたいと思います。

ようなお話をして、町内会長さんに働きかけていくというような工夫をされ、進めていけるような形になってきていますというようなお話をお聞きしたのですが、そのような形で、確かに人がいないんですけれども、うちのところではこういうような工夫をして少しでもよくなってきたというものをいろいろと集めさせていただいて、ほかの地域でもそういうものが使えないかというようなものを考えていければというふうに思っています。それを今期、第4期計画の中では一つ、先駆的な取組みというもののの中でそういうものを取り入れていきたいというところもございます。少しでも地域の方々が、ほかのところでやっていてこんないいところがあったんだったら、少しそういうものを使えば人がちょっといなくても、または、ほかからこういうものを頼めばできるものもあるんだよというものを少しずつ取り入れながら、その地域の実情に応じた形でできればというふうに思っております。

○原田委員 そんな問題じゃないんですよ。そんな例外的にどこかでやっているからそれをまねしてやればいいという程度の問題じゃないんですよ。もっと深刻な問題なんですよ。そういう認識が全くないじゃないですか。だから、私が言っているのは、できる範囲でやればいいんですねということを質問しているわけですから、それにちゃんと答えてくださいよ。

○山下会長 じゃあ、私が受け取りまして、前回と同様のご意見をいただきました。市の対応は如何かということが原田委員の透徹したご意見なのですが、私は、こういうご意見も重要であるとは思っております。住民が主体の地域福祉を推進するための行政計画というのはとても難しくもある策定過程を経てゆく場合もあります。つまり、本音の話を語らないと前に進まない。今日も原田委員がお話くださったように、地域の事について、とても悩みながら、これからどうすればよいのか、と発言しなければならぬぐらいなことも抱えながら地域の課題に取り組んでいらっしゃるのがわかります。特に町内自治会の中の担い手の育成や、住民でどこまで地域の人々を支えていくんだ、行政はそのときに何をしてくれるのか、自分たちに丸投げではないのかというような認識もあるのでしょうか。そうした地域社会の閉塞感みたいなものが現代社会の中にあるというのは事実でもあります。では、行政がどこまでできるのか、いうのをその行政職員の方に問い詰めたところで、それなら公務員を手当てして公的サービスを増やしますということもできにくくなったところで、地域住民にできること、支えあいのまちづくりに挑戦していこう、というのが地域福祉をみんなで作らましようということなんです。そこで、じゃあどういふものをつくるのかというのが重要です。

そうすると、何が必要かというのと、町内自治会や地域の中の窮状というのでしょうか、ここまで地域が大変だということを実事として受けとめながら、そこでどのような活動、つまり今私たちができることをすると歩調を合わせながら、みんなで作ること、公助としてしなければならないことを明確にしながら

ら地域住民の支え合いをこれからさらに強めていくことが可能かという時期にあると思います。

前回の会議で千葉市老人福祉施設協議会の方が社会福祉法人として進める地域福祉活動、つまり施設の中のサービス提供にとどまらず、地域社会に社会貢献、地域貢献していこうというふうにおっしゃいました。そうした新たな地域福祉の連携というものも計画に少し丹念に書いていくということ、そういうことを調整してくれるコミュニティソーシャルワーカー役がいなかったことに対応できないということも事実でしょうから、それが「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）などの専門職の育成・配置」って6章に実はつながっているわけです。

そういう意味では、いわゆる地域福祉の財源づくりというのが非常に重要で、市民局の予算とか、あるいは地域福祉側は比較的予算が薄いように見えますけれども、その地域福祉の財源というのをやはり今後厚みをつけていく、その地域福祉の財源というのは公費に期待し、コミュニティソーシャルワーカーの人件費は期待する一方で、活動とか事業に関するものは寄付なども含めいろんなお金を集めていくという、つまり、公費だけではない地域福祉の財源、運営の仕組みも考えていかなければならなくなるでしょう。地区部会の方、既に会費を集めていらっしゃると思いますが、そうしたお金の調達の方法、こうしたことも町内自治会の方と話していくことができる地域福祉の職員というのがまだ全国的に本当に少ないので、そうしたことをつくっていこうというのが、後ほど説明されるその千葉市の地域福祉の方向性になればよいと思っています。

原田委員からのご意見は実はほかの地域でも同じ事が起こっているの、行政が作成した地域福祉計画を住民が本当に使えるものにしたいという意思表示と受け止めて今のご意見をきっちり受けとめて、それに基づいた地域ごとの、短期目標（とりあえずできることをまずしてみようよ）とか、介護保険制度の財源を用いた高齢者の新しい総合事業の住民の支えあい（ごみ出しができないお隣の方がいて、玄関までごみを置いてくれれば近くの方がそれを集積所まで持っていきますよとか、あるいはサロンをいきなりつくることはできないけれども、公園で、あるいは横断歩道で子どもの安全が、道路で事故に遭わないように安全に見守るような活動をしましょうという活動にプラス、ちょっとラジオ体操でもしていこうねという健康づくりをくっつけてみたりして、それを今来なかった人がいるからそのおうちに少し気にかけてみようとか、でもそのご近所の方は隣の人や近所の人に来ることを拒んでいるので、じゃあそれは地域包括支援センターとかそういうところにやはりちゃんとつなげて、私たちは今できないんだけどもということをしよう）を地域に見える支え合いの姿にしていくということを進めることはできないでしょうか。

徹底的に地域福祉を進めようとする、話し合いを尽くす事も必要かもしれませんが、住民と関係機関とで時間はかかるかもしれないけれども、話し合っ、話し合っ、話し合っ、話し合っっていくということが非常に重要です。今日の会議も前回に引き続き武井委員、原田委員には心行くまでしゃべってもらったということ

をしたのも、地域福祉の原則というのはそういうことなのだと会長として思っているからです。

ぜひ、ほかの委員の皆さんも、原田委員のような大変だというご意見も頂戴しながら地域福祉計画をまとめていく、それを最後は行政が腹を据えてしっかりしますというふうを書く事で宣言させて終わるのではなくて、じゃあ行政の役割と住民・市民（私たちの）役割を協働、分担し合いましょうというふうにまとめていくという地域福祉計画にしていきたいと思います。

ほかはいかがでしょうか。

はい、どうぞ。松崎さん。

○松崎委員 今、原田委員とか津田委員のお話を聞きながら、やはり従来の地区部会というのは、民生委員さん、それから町内自治会等を含めて、それから社協を含めて、地区部会と、ずっと何年もかかって千葉市は地区部会を、私が最初関わったときはまだ50か所ぐらいしかなかったんですけど、今67か所ぐらい増えてきたということで。町内自治会組織のつくり方というのが一体行政の中で、30軒ぐらいあるけれどもそこでじゃあ町内自治会をつくりますからって町内自治会を認める、あるいは団地のように大きな世帯ですともう1,000世帯、2,000世帯でも1か所の町内自治会として認めると、もう今ばらばらですよ。私もその町内自治会費を集めて地域の中でいろんなこと、さまざまなことをやろうとすると、ある程度の地理的なまとまりとか住宅のまとまりとか、そういうもので適正なある程度の会費が集まって何かできていく、あるいは支え合いができていく、そういう規模ってあるんじゃないかなというふうに思うんですね。それから見ると、全く届け出があればもうそれで町内自治会だという形で、ある意味で適正な規模でお互いに、非常に地理的な条件というのがあると思います、住宅がどういうふうに建ってきたかとかいろんなので違うんですけども、何かそのところがもう一度再編成しなければいけないというふうに私は思っています。

どうしても地域を支えるというときに、非常に伝統的に地域の町内自治会組織というのがきちっとしてしっかりとしているところは、やはり福祉の部門で町内自治会組織の中にきちんと入れて、そして高齢者や障害者やそういうものを含めて町内自治会として考えていこうという、そういうところもありますし、それから、なかなか社協さんがそういう町内自治会の中にどんどん入ってきていろいろなことをしていただくというところがなかなか言っていないんですけども、やはり専門職としてのコミュニティソーシャルワーカーというのが地域の中に入って行って、その地域の課題を分析したり地域の人と話し合いながら、そうか、ここは高齢化率が54%ですね、そうすると階段のある家からごみを出すのは大変ですねとか、いろいろそういう話し合いをして、そして地域で課題を共有しながら、それじゃあ具体的に解決する方法まで見つけていくというような支援がもっともっと地域の中にコミュニティソーシャルワーカーとして入っていかなきゃいけないのに、やはりまだ十分入っていない。

それから、今、原田委員や津田委員のお話を聞きながら、介護保険が本当に介護保険料を皆さん負担するのが5,000円を超えました。2020年には今、8,000円ぐらいになるだろうと言われていたときに、できるだけ介護保険料の負担を軽くするためにも、やはり地域で要支援、要介護1、2の人は在宅という方向へどんどん流れてきていますし、その意味で地域包括ケアシステムというのを、医療も介護も住宅も全て含めてやはり地域ということの視点でまとめていこうというのが生活圏域という発想だと思うんですね。生活圏域で今、介護施設でも地域密着型をできるだけ均等に、できるだけ地域の人がそこに集まりやすいようにというふうな形で施設づくりをしているわけですが、そこにもう一つ生活支援コーディネーターというのが、介護保険の中で地域の課題と一緒に考えて問題を解決すると同時に、地域に資源がなければ何か資源をつくり出していきましようというような働きかけをする専門的な人材として生活圏域とか、一層、二層、三層と分けて配置して、その人がコミュニティソーシャルワーカーと生活支援コーディネーターの中でやはりもっともっと地域の中に入っていくということを今目指していますけれども、千葉市も生活支援コーディネーターの数がまだ圧倒的に少ないですし、それからコミュニティソーシャルワーカーとして本当に地域の中に入っていけないのかというふうに思っているんですが、町内自治会が出してくるそういう課題について専門職の人が一緒に行ってそういう課題を解決する方向性というのを見出すのはやはり行政の役割だというふうに思うので、よろしく願いいたします。

○原田委員 すみません。私、少しきつい言い方をしましたけどね、結局共助でできないことはみんな公助にはね返ってくるわけですよ、共助でできない部分は。最終的にはそうなりますからね、地域でできないから市がやると、もう必ずそうなりますから、その辺をやはりよく考えていただかないといけないと思います。

私、10年ほど見てきましたけど、やっているところはやっているんですよ。だけれども、全くそれが横に広がっていかないんですよ。まあ全くとは言わないけれども、要するに広がりがありませんね。ですから、補助金をつけても何つけてもやらないところはやらない、そんな状況ですよ。やっているところは金がなくても何でもやりますけど、やらないところは金をつけようが何をつけようが、やらないのか、まあやれないんでしょうね。そんな状況ですよ。

以上です。

○山下会長 ありがとうございます。

武井さん、どうぞ。

○武井委員 武井ですけれども、さっき松崎委員の言われた町内自治会の編成というのはもう極めて難しい話で、もう実態がわかっているのかなというふうに逆に思うぐらいなんですけれども。そこまでいかなかったら、今この地域

福祉計画の中では、実際の担い手の主たる者として地区部会を想定しているわけですがけれども、さっきの話にもあるように、地区部会そのものの組織がどうあるべきかとか、それから最低ここまではやるんだよとかいうのは、社協地区部会というのは社協の活動に賛同して集まったボランティアのグループという位置づけですから、それをもう少し、やはり地区部会としては構成はこういう構成でやると、さらに作業としても最低ここまではやるというのを、やはりそれは社協としてまとめていって、そういう方向に進めるべきだと思うんですね。その辺はぜひ考えてほしいと思うんですが。

それと加えて、今やはり、私は一応ここ町内自治会全体の代表で来ていますけれども、地区部会もやっております、その中で見ると、私のところの地区部会、かなりうまくいっているほうという評価をいただいて、重点課題なんかも、ここまでの課題、多分一番多く掲げてやってきているんですね。ここまでは何とかできてきているんですけれども、ここでやはり一番問題になっているのは、担い手不足というか、もう重点課題でも一遍これをやったら終わりというんならいいんですけど、それをやるために常に、もう経常的にマンパワーが必要だというものがかなりたくさんあるんですね。それにみんな分散してやっていると、すごくしっかり整えていたと思っても、もう今、やはり人手不足で、次の新しいことをやろうと思うとなかなか人員の充当ができないんですね。もうやれないですよと言われちゃって、それでも何とかやる方法、新しいテーマをやる方法を一生懸命考えているところなんです。

そういう目で見ると、資料1の一番最後のところにある人手不足に対してどういうふうにするのといったら、市の考え方は、地区部会等の人材不足軽減ができるよう、NPOやボランティア等の活用について検討しますという、こんな書き方になっているんですね。これ、もう前からこんな話が出ていて、結局できないから地区部会に頼みますよ、地区部会ももっと人手がないからもう少し何とかなるようにしたいですからというような話に対しても、同じような話で同じような回答しか出てこないんですね。ここは非常に不満なところで、この回答だったら今までと同じで全然進まないでしょうと、もうちょっと違う、もう少し進むような考え方はないんですかというのを少し感じているところです。

○山下会長 はい。じゃあ、社協関係で。

○土屋副会長 今日は、副会長より社協の代表みたいなものですから、少し答えます。

まず、先ほどの津田さん、また武井さんからのお話なんですけど、地区部会のあり方、私も今回、昨年3月から実は社協の基盤強化という検討会を外部委員を入れて検討しました。そういう中で、これまでの反省点、そういうものを拾い出して、まずその中に地区部会がありました。地区部会はやはり、先ほど津田さんがおっしゃったように、基本的には町内自治会で構成されています。

ですけれども、その地区部会で取り組んでいることが構成団体の例えば2割しかやっていないとか、それでもこの地区部会はやっているというふうに評価されたり位置づけられたりしますんで、これからそれぞれの地区部会シートというのをしっかりつくることにしました。というのは、ある地区部会は30の町内自治会で構成されていますと、この事業というのは30のうちいくつやっていますかとか、そういうシートをしっかりとつくと、それでその状況をしっかりとつかまえる、そういうことをまず行うということにしました。

それと、地区部会の役員構成ですが、これもそれぞれの地区部会でどうもまちまちなものですから、地区部会で意思決定したことがその構成団体の町内自治会に全てきっちり伝わっていかないような、どうもきらいがあります。したがって、私どもで地区部会のモデルをつくるということにしまして、これは強要はしませんが、そういうような意思決定がしっかり末端まで伝わるようなモデル等を考えてお示しをしましょうと。

それと、コミュニティソーシャルワーカーの話が出ていました。これもやはりいろいろ反省点がありまして、これからは地区部会で挙げてくる事業については、コミュニティソーシャルワーカーと一緒に検討して挙げてきたことは社協は何らかの形でその事業を支援します、応援しますと、そういう事業も新たにつくっていくことにいたしました。

そんな中で、これから社会福祉協議会は、これと併せて来年度、次の活動計画を検討していくわけなんですけれども、基盤強化の検討会でいろいろ学んだ、そのことを生かしながら次の活動計画の中にしっかりと位置づけていくつもりでございますので、もう少し時間をいただければと思います。

以上です。

○山下会長 岡本委員、お願いします。

○岡本委員 一つは会長に運営についてのお願いなんですけれども、意見というのが前回の会議でほとんど出たことが、いわゆる今日はダブってまた意見交換になっているということで、前回の意見がこれに反映されているのかと。いわゆる新しいですね、もし反映されてないとしたら、どういう代案を出してそこに考えていったらいいだろうかということをしないと、単なる意見交換になってしまうというようになりますので、どう進めていいかわかりませんが、意見は意見として私は大事だと思うし理解するんですけど、その辺の進め方をお願いしたいなというふうに思っています。

私、緑区の部会の運営に携わっているわけなんですけれども、第4期の計画を作成するにあたって非常に反省しているところがある。それは、推進協のときの会議などを進めているときに、どうも重点目標だけを中心いわゆる話し合いが進んでしまって、そのメンバーの、例えばボランティアの団体、あるいは福祉事業者の団体、そのほかのいろんな団体がある、町内自治会の団体、その人たちがどう取り組みテーマに携わっていたのかということを見ると、そこか

らそれに対してあまり協力的ではないというか、そこにどう参加させていったらいいかということが不足していたなというふうに思っているんです。この第4期の作成にあたっては、計画の策定にあたっては、やはり事前に私としては、そこに参加している民生委員、あるいは町内自治会、あるいはボランティア団体等のメンバーと役員で集まって意見交流等をして作成の方向に持っていきたいなというふうに思っております、第7章に9項目の重点目標がありまして、それ以外に、「テーマ①から⑨に限らず再検討」していいというようなテーマが入っています。これは今までになかったことですね。こういう項目があって新しく区でテーマを考えていくということが、その地区部会だけじゃなくて、考えられればそういうものを取り入れていくということ、やはり新しいこととしてここに提示されているわけですが、そういうものをやはり評価しながら、あるいはそれがだめなのかいいのかというのは討議しないと、今日のこれ決定するわけですから、決定のときに今までのものから今回の改正されたものを考えていただいたということにさせていただきたいと思っております。

○山下会長 進行のご意見ありがとうございます。しかし、重複していてもそれが委員のなかでストンと納得できなければ何度お話いただいても受け止める事が必要だと考えております。しかし、時間の制約もありまして進行について貴重なアドバイスをくださいました事に感謝いたします。さて、それでは、岡本委員のご指摘のことについて、ご意見をお願いします。岡本委員のご意見は、この項目についてはいかがですか。

○岡本委員 例えば7章の中の※印なんかは私は非常に賛成して、いわゆる9項目に縛られずに考えていくということになると、いろんな団体の考え、団体側と関わっているかということについてテーマをつくることができるんじゃないかなというふうに思って、非常に賛成はしております。

それから、先ほど先駆的な取組事例というようなことは、いや、こういうことは会長から問題があるような発言がありましたけれども、結局、各地区で取り組んでいるときにどうやっていいか、どういう取り組みをしていったらいいのかということ、情報としてやはり共有していくということが大事じゃないかなというふうに思っています。そういう方向なら、あるいはそういう仕方ならうちでも取り入れられるんじゃないかというようなことはやはり参考になると思いますので、これは4章も、そういうことはやはり積極的に取り入れていくということ、いわゆる新しい方法としてやはりきちんと進めてほしいなというふうに考えております。

○山下会長 次、清水委員、いかがでしょうか。

○清水委員 先ほどの松崎委員さんのご意見にも被りますけれども、今回のこの計画の策定につきましては地域包括ケアシステム、これは大変関連が深い

と思われま。自助・共助・公助というんですけれども、今はメインというのは共助の部分がクローズアップされていて、この先どうしていくかということですね、皆さんと検討しなくちゃいけない段にありまして、そうもいってても時間があまりないので、あとは評価できる点につきましては資料の2の「策定方針 その他」でございますけれども、これは介護保険事業計画とタイミングを一緒にするというは、これはいいことなのかなと評価に値する点であります。やはり今、岡本委員さんと私が全く意見が同じでございます、7章のこの枠抜きで地域包括ケアシステムと、また再掲でこの表記がございまして、これに縛られずに再検討ということですね、整合を図ると。こちらの中には生活困窮者自立支援方策等とございますので、その辺はやはり社会資源をどう有効に使っていくかというのがまさに共助の部分で早急に検討しなければならない点でもありますし、その辺についてはやはり、財源ないよ、人がいないよという、ネガティブにとらわれてしまいがちですが、そこはやはり情報、これを持っているのは行政のところ、そして社協さんのところ、やはり情報がなければ我々がせっかく専門知識や技術を持っていてもそれを生かす術がないということになりかねません。ですから、そこは深く連携をとるべきだという意見を申し上げておきたいと思ひます。

以上です。

○山下会長 ありがとうございます。

ほかございますか。

はい、お願いします。

○林委員 民生委員・児童委員協議会の林でございます。

私、初めてですので、今までの検討経緯とかその辺がよくわかってない部分もございましてけれども、まずご提示いただきました資料2、3の骨子ですね、これについては私はこのまま進めていただいてよろしいかと思ひます。といいますのは、やはりこれをベースにして各行政区ごとに行政区のその地域福祉計画のあり方について検討されるべきものだと思います。

私ども民生委員の立場で言ひますと、いずれにしても社協を支えていただく部分もありますし、逆に我々でもっと社協、あるいは社協の地区部会に発言をしたり協力をしたりするということもございまして、先ほどからありますように、いろいろな地域間の濃淡の差というのがあるのは十分承知しております。逆に言うと、こういう地域福祉計画というものをきちんと示し、市のものを示し区のを示すということによって、そこに向けて自分たちは一歩でも二歩でもそういう方向に進んでいくんだということが必要ではないかと思ひますし、行政としましても、それから社協としましても、じゃあ実際にそういう地域の困っているところにどの程度アシストしていけるのかということをもっと真剣に考えていただければ、こんなふうに考えております。ですから、結論から申し上げますと、さっき申し上げましたように、この計画骨子でお進めいただ

ればというふうに考えております。

以上です。

○山下会長 ありがとうございます。

時間も迫っておりますが、この新しく提案に入れたものについて何かご意見ある方いらっしゃいますか。

はい。

○原田委員 この資料4なんですけれども、先ほど副会長が言われたように、エリアのところが変わるわけです。例えば、いくつの町内自治会がやっているよという具合になるわけですか。例えば20のうちの5町内自治会がやるというような形になるわけですか、エリアのところは。

○事務局（風戸課長） こちらは私どものでやらせていただいているものになりまして、エリアは全域でやっているか、どのくらいの割合でやっているかというものになります。

○原田委員 だから、地区部会の中に構成する町内自治会が、例えば20あったら20のうち5がやっていたら20分の5って書くわけでしょう。社協の副会長さんはそう言っているわけでしょう。

○土屋副会長 私が申し上げたのは、今、社協で地区部会シートというのを検討をしていますよと。

○原田委員 これも同じじゃないんですか。

○土屋副会長 これは、また地域福祉課さんから説明がある調査票だと思うんで、直接これではなく、今、私どもは、地区部会の状況がつぶら細かにわかるような、そういうシートを検討していますよという、そう申し上げたつもりなんですけれども。

○原田委員 だから、同じですよ。実質的には。エリアで言われたってわからない。

○津田委員 こういうことでよろしいんですかね。私、若葉区なんですけど、13地区部会、たしか13だと思うんです、その13の地区部会が、それぞれここに地区部会エリアというのが、例えばみつわ台地区だとか何とか地区だとかそういったように分けて、若葉区では13のうち三つの地区部会がこのテーマに取り組んでいますと、そういったようなことがわかるようにしたいと、こういうことですね。

○原田委員 見直してくださいよ、これ。いや、向こうの意見もあるから。

○山下会長 今のご質問は会議の後でも答えられる内容かと思うので、ほかにご意見あればどうぞ。

○津田委員 一つ、私、第7章のところで「取組みテーマ④ 要支援者を支える仕組みづくりと地域団体の活性化」ということでなんですが、この活性化のところ、いろいろこういった地域の支え合いを始めようとする、その該当者というのを探すのが大変なんです。というのは、欲しいのは例えば75歳以上の方のその地区のリストが欲しいとか、あるいは65歳以上の、そういった情報提供というのを行政がもう少し協力していただければ大変ありがたいという認識を持っています。民生委員に頼みますと、民生委員は守秘義務があるので提供できませんと、こういうふうにはっきり断られるんですね。ですから、その辺のところもう少し、やることはどんなことかというのははっきりわかっているわけですから、提供の工夫をしていただければよろしいと思います。受けるほうと覚書を交わしても構いませんし、いろんなやり方があるかと思えますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○山下会長 今までいろいろご意見もいただきましたけれども、結局のところ、今回、資料1、2、3等として新たな提案が事務局からございました。概ね皆さん、これでよしというふうに言っている中で、実は今日一番出ているのは、つくられたのはいいんだけどその後の実行が非常に大変だ、うまくいかないんじゃないかというのが現場のご意見です。

市全体の地域福祉計画をつくる中では、一冊の本にまとまってしまうとそれが確定されてしまい、その先の実際の細かいところが見えにくいというご発言をたくさんいただきました、そのとおりです。そのときに、この第4章と第7章について特に配慮して進めていくことが必要であり、概ね、第7章における公助の役割もきちんと書き込みながら地域福祉というものが展開されるということをご意見もおっしゃるとおりです。そうしたことを承りつつ、地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援制度、子育て包括支援等とのこれからの我が事・丸ごとのワンストップ相談を目指す国の地域福祉政策の整合性というのでも踏まえる必要があります。平成30年施行を目指す社会福祉法の改正においてそうした新条文が入ってくることを聞いておりますので、この部分会長と事務局に一任していただいて、その法制度関係の調整を図っていくということによろしいでしょうか。特に、資料で抜けているのが子育て支援関係でございまして、実は母子保健法の子育て包括支援センターというのがございまして、そちらは盛り込んでいただきたいと会長として発言いたします。

そのほか、千葉市社会福祉協議会の役割もきわめて重要であり期待したいところです。地域内の協働、連携というものも今日ご議論でいろいろ出てきたと

ころです。千葉市社協が千葉市の全体の中の福祉を推進するというのと、地区ごとの圏域、エリアを分けてさらにきめ細かく支援していくという、この二つを政令指定都市の社協として担っていくという意味で、町内自治会あるいは地区の社協の活動をされる地域住民、地域活動を今まで積極的に担ってくださっている地域の方と関わっていくということとも併せて、これからは、千葉市民で地縁型組織に所属していない方も心を寄せてまいる必要があります。松崎委員からご発言があったような、町内自治会のサイズが大きかったりして、そうした福祉の活動にまだ通じていない方、いわゆる市民活動をどのように進めていくかということ、地域福祉担当部局と市民部局で市民活動の推進策を行政としてどう支援してゆくかかなり強調していかなければならないかもしれません。実はこの分科会のメンバーに入っていない市民活動団体の方々、いろいろな市民が地域福祉の担い手であるということ、都市である千葉市で考えていく、そうしたものもこの地域福祉計画に必要な検討事項かと思えます。

今回はマイナーチェンジということで前回皆さんのご了承をいただいたので、前回踏襲の章立てでまいります。ちらっと前にも申し上げたんですけれども、生活課題の発見からとりあえずの支援、支えあい、行政サービスへのつなぎと地域住民との支えあいの一連の解決のプロセスとしての福祉総合相談を千葉市の中にどうつくってゆくか、個人情報課題もありますが、どういう人が生活に課題があり、あるいは困っていて、そういう人たちをどう支えてゆくか、行政、地域住民同士で話し合ったり支え合っていくというそのまちづくりを進める地域福祉計画を目指す必要があると思えます。

地域福祉は、支えあうというという意味で、人間が人間を支えるというのは市民の責務でもある、福祉の学習をしながら進んでいくものであります。千葉市社協で小学校向けの福祉の本をおつくりになりましたが、大人においてもこうしたことを進めていく、それを特に高齢者世代、稼働年齢層にもメッセージしていくということも新たな課題になってまいります。そうしたこと、相談、発見というものを第5期の計画には盛り込まなければならないと私は思いながら、とりあえず今回の中間地点でもある第4期を進めていくという方針で司会進行しております。

そういう意味では、先ほどの原田委員、津田委員からのご発言のように、地域社会がうまくいかないという実態もよく受けとめながら、地域福祉計画を増進させていくために地域福祉計画と、それを具体的に一緒に進め、地域住民と伴走してくれるコミュニティソーシャルワーカーを配置させ、福祉担当部局、市民局、あるいは社会福祉協議会で地域社会の福祉の向上に向けて後押しするというのをぜひ進めていただきたいと思います。

ほかには何か、議題1についてご意見ございますか。もしこれでよろしければ、事務局と私に一任いただいて、こうした方針で進めていくということよろしいでしょうか。

何かまたございましたら、ぜひ後ほどご意見は事務局にお寄せください。それでは、次の議事に入りたいと思えます。

では、事務局から説明をお願いしたいんですが、報告事項の「我が事・丸ごと」について、事務局からお願いします。

（４）報告事項１ 「我が事・丸ごと」の地域づくりに向けた社会福祉法の改正について

○事務局（黒木主査） 資料５については、私から、かいつまんで説明させていただきます。座ったまま失礼いたします。

お手元に配付しております資料５の「我が事・丸ごと」の地域づくりに向けた社会福祉法の改正について」ですけれども、これは資料にございますように先月の１月１３日に厚生労働省社会・援護局地域福祉課が開催した説明会で用いた資料になります。

その社会福祉法の改正内容ですけれども、１枚おめくりいただきますと、１ページ目になります。社会福祉法第１０７条にあります市町村地域福祉計画の条文ですが、その策定についてこれまで任意であったものを、策定するよう努めるものとする努力義務化しております。その上で、地域福祉における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉、その他福祉に関する共通的事項を定めるべきという改正が盛り込まれております。

その下の２ページ目が現行の規定になりますけれども、第４条、それから第１０７条のところ、今、内容の公表が努力義務になっているところになっています。

おめくりいただきまして、順に説明していきたいところなんですけれども、時間の関係もございますので、少し先を飛ばしまして、６ページ目ですね、６ページ目の新しい地域包括支援体制の構築というのが、今、国が考えているところがございます。今、高齢者を対象とした地域包括ケアシステムというものがあるわけなんです、それを高齢者に限らない、生活困窮者、その他の幅広い、全世代、全対象型の地域包括支援体制というのを、今、国は考えております。家族のあり方や地域社会が変容していく中で、全部まとめて地域づくりを進める、そういうことをやっていきたいというお話でした。

７ページ目から９ページ目が「ニッポン一億総活躍プラン」というところなんですけれども、こちらが閣議決定された国の方針ということになります。その中で地域共生社会の実現というところが盛り込まれておりまして、これを厚生労働省の言葉にしたのが「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部というところ、そして、それが１０ページ目のところになります。

１０ページ目の「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部の枠の中の左下のところに地域力強化ワーキンググループというところがありまして、この検討会が今年の１０月から開催されておりまして、１２月に中間とりまとめというのを出しております。それが１２ページ目になります。１２ページ目の地域力強化検討会中間とりまとめの概要というところで、これまでの「従来の地域福祉の地平を越えた、次のステージへ」とあります。右側のところに地域福祉計

画の充実というところがうたわれてきております。それを受けて、先月の1月13日の説明会というところにつながってきています。

今後のスケジュールなんですけれども、この地域力強化検討会の中間とりまとめというのが12月に出ているわけなんです、これがあと何回か開催されて、今年の夏ぐらいに最終報告が出てまいります。その最終報告を基にして来年の3月に方針が出て、4月から施行の法改正を追っていくという、そういう流れになっております。

少し駆け足になってしまいましたけれども、この資料の説明については以上になります。

○山下会長 ありがとうございます。

法改正で今回、地域福祉計画についても改正されることになっていまして、その開始年度とこちらの計画の発行年度が同じになっていますので、そこを注視しながら修正していく作業をできる限りしていきたいと思っております。

9ページのところをご覧くださいと何をすることがコンパクトに書いてありますけれども、地域福祉計画で重要なのは、「地域課題の解決力の強化／福祉サービスの一体的提供／総合的な相談支援体制づくり」と9ページの真ん中に書いてありますが、ここに従来の相談機関、行政、そして民生委員さんや、市民もその相談役、ちょっとした困り事を発見する人となってみんなが地域の課題を考えていくことができないかというのが、その16年から始まっている相談支援体制づくりと地域課題の解決力強化に向けたモデル事業ということで、既に1,500万円ほどの予算が、1事業者あたり、全国100か所ぐらいで予算化されて進んでいることとあわせて、そうした多機関の協働のモデルというのも来年度の予算事業で国で始まっていますので、千葉市においてもそれをよく参考にされて、千葉市社協とかそういうところでもまた比較されるようなことも想定しながら、相談体制と解決力の強化というのをみんなと一緒に進めていくということをぜひ主体的に進めていただきたいと思います。

それでは、次は、報告事項(2)の千葉市WEBアンケートですね、これも1分ぐらいでお願いします。

(5) 報告事項2 千葉市WEBアンケートの調査の活用について

○事務局(黒木主査) 続きまして、資料6「千葉市WEBアンケートの調査の活用について」です。こちらは今までインターネットモニターというアンケート調査があったんですけれども、それに代わりましてWEBアンケートという形式で今度5月に予定しているものです。その調査項目の案というものです。今後、実施にあたってまた精査していくものなんですけれども、ご意見等いただければ、ありがたいと思っております。

○山下会長　　またこちらも、皆様ご質問等ございましたら、後ほど事務局の
にまたお寄せいただければと思います。

その他について、何か事務局からございますか。

○事務局（風戸課長）　　特にございません。

○山下会長　　ありがとうございました。

最後駆け足になりましたが、予定どおりに議事が進行いたしました。

地域福祉というのは、やはり皆様から一人ずつご意見をいただきましたところなんです、残念ながらお一人お一人にマイクをお向けすることができな
かった進行の不十分さをおわび申し上げます。

一方で、今日課題が共有できたのは、実際に地域の地区で働いているという
か活動されている方の苦悩というか、そうしたものをよく聞くことができましたので、これを忘れることなしに地域福祉計画に盛り込むということと、行政
の役割と市民の役割をいま一度考えようということをもとめにして、私の進行
を終わりにして事務局にお返しいたします。

○竹川保健福祉局次長　　本日は、長時間にわたりまして集中審議、ありが
うございました。

本年度におきましては合計3回、分科会を開催いたしまして、おかげさまを
もちまして、方針、それと骨子を確定することができました。

来年度に入りますと、7月に素案、11月に原案、3月には最終案とご審議
を重ねてお願いする予定となっておりますので、委員の皆様におかれましては、
引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

○事務局（黒木主査）　　ありがとうございました。

最後に、事務局から3点ほどご連絡いたします。

1点目は、本日の委員報酬について、です。来月にはご指定の口座に振り込
ませていただく予定です。千葉市への登録口座を変更される場合はご連絡く
ださい。

2点目は、会議録の取り扱いについてです。本日の議事録ですが、事務局が
作成し、委員の皆様を確認のため送付させていただきます。その後、会長に署
名をいただき、正式な議事録となりまして、インターネットでの公開となりま
す。

最後に、配付資料についての取り扱いですが、計画書の冊子につきましては
会議用のものを毎回こちらで御用意いたしますので、そのまま置いていただ
くようお願いいたします。事務局からの連絡は以上となります。

本日は、長時間にわたりご審議いただきまして、誠にありがとうございました。
引き続き、来年度もよろしくようお願いいたします。ありがとうございました。

議事録署名人

平成 年 月 日

千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会 会長_____